

タイトル		Voices in the Park			
著者（文・絵）		Anthony Browne			
出版年		1998 年	出版社	Corgi	
翻訳版		『こうえんで... 4 つのお話』久山太市訳、評論社、2001 年			
総語数	541 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
2 組の親子が登場します。一方は母と息子（チャールズ）、もう一方は父と娘（スマッジ）です。それぞれの親子はペットの犬を連れて公園に遊びに来ます。二匹の犬が遊び始めるのにつられて、チャールズとスマッジもなんとなく一緒に遊び始めます。チャールズの母親は、息子や飼い犬のことをしきりに気かけイライラしています。スマッジの父親は、疲れた様子でベンチに座り新聞の求人欄を読んでいます。やがて夕方になり、チャールズはスマッジに赤い花を渡します。そして二人はそれぞれの親と家路につきます。					
紹介					
あらすじを読んだだけだと、「なにそれ？それだけ？」と思われるかもしれませんが、実はこの絵本は構成が変わっているのです。Voices in the Park というタイトルが示す通り、この絵本は複数の voice から構成されています。あらすじに書いたように、描かれるのは公園での日常のひとコマで、何か特別なことが起きるわけではありません。ただし、その同じ出来事が、2 組の親子 4 人の voice を通して提示されるのです。“First Voice”から“Fourth Voice”までの 4 つの章で、各人物がそれぞれの視点から、同じ時間に同じ場所で生じた同じ出来事を語ります。文字テキストの語りだけでなく、絵のタッチや色合い、絵の中で強調されている事物、あるいは意図的に描かれていない事物（その人物の目には入らない事物）、さらには文字テキストのフォントがそれぞれ異なるため、読者は否が応でも、「事実/真実は一つではない」ということを意識させられることになります。そこから、「ただ一つの事実/真実などあるのか」というポストモダン的な問いにたどり着くのはそう難しいことではないでしょう。読書経験が不十分なまま大学に入ってくる昨今の学生に「テキストを読む」とはどういう行為なのかを体感させるには、格好のテキストではないでしょうか。ポストモダン小説を読む、あるいはポストモダン映画を鑑賞するための足場かけとしても使える絵本です。					
指導ポイント、授業活用例、学生の声など					
【異なる二つの階層と英語】					
Voices in the Park には、二つの社会階層が描かれています。Browne はイギリス人ですから、イギリスの階層でしょう。これはまず絵を見るとわかります。チャールズと母親は、					

トラッドでコンサバなファッションです。母親が身につけているものはどれも高級ブランドの品物ようですし（帽子はグッチ？スカーフはエルメス？コートはプラダ？）、チャールズのシャツ、チノパン、ダッフルコートはラルフローレン風に見えます。履いている革靴もピカピカに磨いてあります。一方、スマッジと父親の着ている服に高級感はありません。父親のニット帽やジャケットは肉体労働者を想起させますし、スマッジは洗いざらしのTシャツにノーブランドのジーパン、スニーカー姿です。（以下余談ですが、スマッジの父親の風貌は第 69 回カンヌ国際映画祭でパルムドール賞を受賞した名匠ケン・ローチ監督作『わたしは、ダニエル・ブレイク』のダニエルの姿を彷彿とさせます。ダニエルも心臓病のため職を失い、貧困の中で人としての尊厳を失っていきます。ぜひこちらと一緒に鑑賞することをお薦めします。）

この違いは、彼らが話す英語にも反映されています。例えば、チャールズの母親が正統派クイーンズイングリッシュを話していることは、“Oh, dear!”という台詞からわかります。息子を愛称（例えばチャーリー）では呼ばずにチャールズと呼んでいることも、彼らが上流階級に属しているのではと想像させます（チャールズという名前もいかにも王室を思わせます。犬の名前もヴィクトリアです。）一方、スマッジ父子の英語は、父親の“me and Smudge took the dog to the park”（文法的に正しくない英語）やスマッジの“fed up” “the silly twit” “I got talking to this boy”（口語表現）から、階級が高くないことを示唆しています。スマッジという名前も「汚れ、しみ」という意味で、チャールズという名が持つ品格のようなものは感じられません。作者は、意識的にこうした差異を示して、そこから読者に様々な情報を読み取らせようとしています。

【ポストモダン/ポストモダニズム絵本 (post-modernist picture book)】

本研究会メンバーによる先行論文より、ポストモダン絵本についての説明箇所を以下に引用したいと思います。ぜひそちらの論文もご参照ください。

大学生を含む大人の読者の鑑賞にも耐え得る絵本として、近年教育現場で注目されつつあるのが、ポストモダン絵本である。英語圏での母語としての英語教育や日本における国語教育の分野に多くの 先行研究を見出せるが、例えば Anstey (2002)は、ポストモダン絵本の特徴を 1) nontraditional ways of using plot, character and setting, 2) unusual uses of the narrator’s voice, 3) indeterminacy in written or illustrative text, plot, character, or setting, 4) a pastiche of illustrative styles, 5) new and unusual design and layout, 6) contesting discourses (between illustrative and written text), 7) intertextuality, 8) the availability of multiple readings and meanings と指摘する (p. 447)。つまり、これまで暗黙のうちに「絵本」に共有されていた予定調和やなんらかの教訓、主人公の気づきや成長などを覆すような設定がなされる点、「語り」に読者の意識を向けるような工夫がなされている点、文字テキストにも絵にも意味の不確定性が見られ、そこから多義的な読みや解釈が導かれる点、文字と絵の間に何らかの関係性を見出せる点、細部が過剰に描き込まれ、メタファーが多用されている点、さらに、間テキスト性、つまり、

今読んでいる作品の中にこれまでに接したことのある別の作品への暗示的言及やそこからの影響が読み取れる点などがその特徴と言えるだろう。同様の指摘を McClay (2000) や Lazar (2015) がしているほか、スタイルズ (2002) は「多層構造(複雑さ)」「断片性」「遊戯性」「未完結性」「衝撃性」を挙げる。山元 (2011) は、ポストモダン絵本の重要な柱は「語り」の問題であるとし、ポストモダン絵本を通して「語り」の重層性に気づくことで、学習者が絵本以外の小説の読みを深める可能性があるとして述べている。

(「ワールドカフェ式ディスカッションの分析: 書き込み記録から見えてくること」

JAILA Journal 5 (2019), http://jaila.org/journal/articles/vol005_2019/j005_2019_039_a.pdf)

【間テキスト性】

詳しい説明は、本 HP の *The Lost Thing* のページを参照のこと。

例えば *Voices in the Park* の場合、“Third Voice”の2ページ目、チャールズが公園内の道をとぼとぼと歩いている場面が、ルネ・マグリットの「大家族」「人の子」「ゴルコンダ」からイメージを借りている気がします。マグリットを知っていると、このページを見た瞬間にマグリットの絵が思い浮かび、それがチャールズと重ね合わされることで、新たな解釈が生まれるのです。

【絵を精読する】

ブラウンの作品は、とにかく絵をよく見る、というか「絵を精読する」必要があります。文章には表現されていない多くの情報が絵のなかに隠されているのです。教室でこの絵本を使う場合、絵に描き込まれた細部を『ウォーリーを探せ』を読むときのように探させると、とても盛り上がります。そうした細部が、意外な読みにつながる可能性もあります。

【授業活用例】

➤ ワールドカフェ

ワールドカフェというディスカッション方法については、本 HP のアクティビティ一覧をご参照ください。

大学生向けの多読授業と学会のワークショップ(参加者は主に教員)で *Voices in the Park* を使ったワールドカフェを実施しました(詳細は、Extensive Reading World Congress Proceedings 2018, <http://jalt-publications.org/content/index.php/jer/article/view/88> を参照)

前者の場合は、事前準備としてワークシートに4人の人物の特徴やその他絵本について気づいたことを書き出させてきた上で、90分の授業でワールドカフェを実施しました。後者は、その場で絵本をペアで音読し、すぐにワールドカフェを行いました。どちらも非常に盛り上がり、多様なアイディアの集積が生まれました。*Voices in the Park* は読者によって多様な解釈が成り立つ絵本なので、グループディスカッションに最適だと思います。大学生からは以下のような反応がありました。

- 非常に読みやすく、簡単な内容の本だったので議論もはずまないと思っていたが思った以上に色々な意見がでてきたので、より本への理解が深まった、また、絵本の

中における絵の役割は非常に大きく、議論の中心も絵に関するものだった。

- 自分とは異なる視点から見た多くの意見が聞けたのが何より良かった。自分は *Voices in the Park* において登場人物のセリフや服装に注目し、逆にその背景にある景色にはあまり注意できずにいたが、そこに着目した数多くの考え方に会うことができ、より一層 *Voices in the Park* の世界を楽しむことができた。また、大きな構造紙にフローチャートのように、本に関することを書いていくのも、自分の本に対する理解の深まりに比例してチャートが広がっていくので面白かった。
- 作者の仕掛けに驚かされっぱなしでとても面白かったです。今回は絵の中でしたが、もっとハイレベルになれば、文中とか、表現の中に作者の意図を読み取れるようになるのかなと思いました。
- 一見普通の絵本だと思っていましたが、今回のアクティビティを通して視点が 180° 変わるような衝撃を味わいました。はりめぐらされた伏線や仕掛けの意味を同じグループの人、また外へ出ていって新しい人たちと意見交換するのはとても楽しかったです。1人で読むより圧倒的に理解が深まったと思います。

➤ ポストモダン絵本を使ったグループディスカッション

この活動は、本 HP で紹介している他のポストモダン絵本 *I Want My Hat Back*, *The Doubtful Guest*, *Into the Forest*, *The Lost Thing*, *It Might be An Apple* などと組み合わせて行います。ポストモダン絵本は読者に多様な解釈を促すので、ディスカッションに用いると、参加者は1人で読んだだけでは気づくことのない新しい視点、物の見方に気づくことができます。

手順

Lesson 1

1. ポストモダン絵本とは何かについて教師が説明する。
2. 6冊の絵本を学生に回し読みさせ、最も気に入った絵本を選ばせる。
3. 学生の第一希望を考慮しつつ、絵本ごとに4～5人ずつのグループを作る。
4. 次の授業までに、選んだ絵本についてあらすじ、登場人物の特徴、テーマ、その他ディスカッションで話したい問いなどを準備させる（ワークシート配布、下記参照）。

Lesson 2

5. 選んだ絵本についてグループディスカッションを行う（30分～45分）。
6. ディスカッションで話し合った内容をクラスで発表する（各グループにつき10～15分程度）。発表の際には、パワーポイントや手書きのフリップなど視覚資料を使用するよう指示する。

関連作品・参考 URL

【Browne による他のお勧め絵本】

- *Into the Forest* (Walker Books, 2004) (『森のなかへ』灰島かり訳、評論社、2004年)
本 HP で紹介していますので、そちらをご覧ください。

- *The Tunnel* (Walker Books, 2008) (翻訳なし)
本 HP で紹介していますので、そちらをご覧ください。

【Browne 自身による公式サイト】

- Anthony Browne Books (<http://www.anthonybrownebooks.com>)
ここに、上記以外のブラウンの絵本が網羅的に紹介されています。
作者自身が案内役をつとめる *Voices in the Park* の朗読画像（音楽付き）も見ることができます。朗読音声を聞くと、2 組の親子の話す英語がかなり違うことがわかります。前述したことです、この違いが両者の属する社会階層の違いを示しています。絵本を黙読するだけでなく、教室でこのサイトの朗読音声を聞き、言葉が伝える非言語情報にも注意を向けるよう指導するとよいのではないのでしょうか。

cf. 参考ワークシート

Reading Picture Books for Shared Reading				
Student ID _____ Name _____				
Title of the picture book you chose _____				
Before the Discussion				
➤ What are the objective facts of the story? List them below.				
➤ Fill out the table below. (Character の数は作品によって適宜変更)				
	Character A	Character B	Character C	Character D
How old is he/she?				
What can we tell about the character from the way he/she speaks or				

behaves?				
Anything else in the book that gives information about the character				
What page is the most important for the author ⁽¹⁾ ? Find the core idea ⁽²⁾ of the picture book.				

© Just Imagine Story centre Ltd.

注(1), (2)

作者の視点を意識させるための問いです。作者がその本の「肝（きも）」であると考えているページはどこかを探します。Core idea とはその「肝」のことです。本の「核」となるアイディア、あるいはその本の「種」と言えいいでしょうか。作者はなんとなく本を書き始めているわけではなく、なんらかの「種」から本を育てていくと考えられます。それは必ずしも明確なメッセージやテーマではないかもしれませんが、しかし、その「種」がなければ、その本は生まれなかったような「着想の原点」が本のどこかに隠れているはずです。それを、作者が描き込んだ言葉やイラストの中に探す活動です。もちろん、決まった解答はありませんので、ディスカッションで最も盛り上がる問いです。

During the Discussion

Write two questions that you would like to ask your classmates. Then provide answers to the questions.

Question 1 + your answer（事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する）

Your classmates' answers（ディスカッション中にメモする）

Question 2 + your answer（事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する）

Your classmates' answers（ディスカッション中にメモする）

After the Discussion

Write a short review of _____ (title) for class presentation

_____ (title) is about _____

What attracts the reader to this book is that

(文責：深谷素子)